

平成24年度 教育行政執行方針

教育委員長 白井 あや子

はじめに

平成24年第1回鹿追町議会定例会の開催にあたり、教育委員会所管行政の執行に関する方針について申し上げます。

東日本大震災による未曾有の被害の復旧・復興に国民が丸となって取り組まなければなら



ない現状と、混沌とする政治や経済不安が折り重なり、明るい将来を見出しづらい現代社会にあつて、「生きる力」をはぐくむ地域の教育力がより一層求められています。

次代を担う子どもたちには夢と希望を与え、誇りのもてる町づくりを進め、本町ならではの特色ある教育を一層充実・発展させなければなりません。子どもたち一人一人の歩みを支え、健やかにはぐくんでいくことは、社会全体の役割です。教育委員会としても、町民皆さまと手を携えながら、「鹿追の子は、鹿追で育てる」という自信と責任を持って、本町のエデュケーションを全力を尽くしてまいりたいと考えています。

また、町民一人一人が自分に合った学習機会を選択し、豊かに学び、文化に親しみ、スポーツを楽しみ、家庭、学校、地域

がしつかりとつながり合っていくことにより、その成果を生かすことができる柔軟で活気のある生涯学習社会の実現に努めていくとともに、学校教育と社会教育が一体となった学社融合の施策を進めます。

学校教育

最初に、**学校教育の推進**について申し上げます。

いよいよ今年度から、中学校において、全ての教科等で新しい学習指導要領による教育が始まります。新学習指導要領の趣旨を生かし、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」をはぐくむべく、「学力の向上」「豊かな心と健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」「鹿追らしい一人一人の学びの実現」の4点について申し上げます。

まず、「学力の向上」です。

これまで行われてきた全国学力学習状況調査などの結果から、本町においても基礎的・基本的な内容の確実な定着や知識・技能を活用し考えたり、表現したりする力、学習習慣を十分に身に付けていく必要があります。

このようなことから、教員2名を町職員として採用し、子ども一人一人の実態に応じた少人数指導やチーム・ティーチングなど個に応じた指導の充実や深く考え、よりよく表現することのできる学習指導の工夫を図ります。

さらに、日常生活との関連を図った学ぶ楽しさを感じることのできる学習活動の工夫、チャレンジテストなどの授業や家庭における効果的な活用を図り、学ぶ意欲の向上に努めます。

二点目は、「豊かな心と健やか

な体の育成」です。

文部科学省が、本年2月に公表した平成22年度の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、小・中・高・特別支援学校における、いじめの認知件数は約7万8千件と前年度より5千件増加している状況です。本町においても、他者を思いやることができない行為や集団とのかかわりがもてない様子が見受けられるなどの実態もあります。

このようなことから、まず、継続的な子どもの実態把握に努め、子どもの心のサインを受け止め、心の悩みや不安を理解し、一人一人に寄り添いながらよりよい方向を目指し自発的に行動できるように生徒指導の充実を図るとともに、教育相談体制を確立し、組織的・継続的な指導や家庭、地域、関係機関との連携を密にした取り組みに努めます。また、最近、特に危機感が増しているネット上のいじめに対する早期発見、早期対応にも心がけ定期的なネットパトロールの実施を進めます。

次に、豊かな心をはぐくむ上



で大切な実践となる「道徳の時間」については、道徳教育推進教師を中心とした推進体制を確立し、「道徳の時間」を要とし「心のノート」の有効活用を図りながら、子どもの心に響く指導の充実に努めます。

さらに、健やかな体については、近年、社会環境や生活様式などの変化により子どもの体力・運動能力の低下や不規則な食事や肥満の増加など食に関する健康の問題が指摘されていることから、特に、全国体力・運動能力調査の結果の分析を生かし、体育・保健体育科の授業はもとより特別活動など学校教育全体で子どもが体を動かす機会を確

保するとともに、子どもが楽しみながら運動し体力の向上を図ることができるよう努めます。

三点目は「**信頼される学校づくり**」です。

近年、教師による不祥事などがマスコミでも取り上げられるなど、学校への信頼が揺らぐさまざまな問題が発生しています。信頼される学校づくりには、直接教育に携わる教師の教職に対する情熱や責任ある行動が不可欠です。このようなことから、学校は教育活動の成果を計画的に公表し説明責任を果たすことや子どもたちが安全で安心して生活できるよう危機管理体制の確立を図るとともに、教員としての高い使命感をもって日々の教育実践を推進します。

四点目は、「**鹿追らしい一人一人の学びの実現**」です。

子どもたちには「生きる力」をはぐくむためには、学校、家庭、地域の三者がそれぞれの役割を果たし、地域の子どもは地域で育てることが大切であり、そのために、地域の実態に応じた「鹿追らしい一人一人の学びの実現」を図ることのできる特色ある教



育を進める必要があります。

本町においては、9年間にわたり、文部科学省の**研究開発学校の指定**を受け、小中高までの12年間の一貫したカリキュラム研究にもとづき、ふるさと鹿追を愛し、地域の発展に貢献し21世紀をたくましく生きることのできる真の国際人をはぐくむべく尽力してきました。

このことから、これまで研究してきました英語教育「カナダ学」と環境教育「新地球学」としてのさらなる進化を目指し、今後も身近な教育資源の活用や新たな視点としての防災教育を取り入れた学習の充実、地域ぐるみで学校を支援する体制づくりを推進します。

また、**特別支援教育**について